

# 目次

## 第1章 | はじめに

---

1-1	下関市における夜間景観形成の重要性	1
1-2	夜間景観形成基本方針	2
1-3	夜間景観ガイドラインの目的・位置付け	3
1-4	夜間景観ガイドラインの対象エリア	5

## 第2章 | 下関市の夜間景観の現状

---

2-1	ライトアップ施設の一覧	6
2-2	主要な夜間景観の眺望	8
2-3	道路照明の現状	14
2-4	商店街の現状	18
2-5	下関市の光の特徴	20

## 第3章 | 下関市における夜間景観の主な課題

---

3-1	下関市における夜間景観の主な課題	22
-----	------------------	----

## 第4章 | 下関市の夜間景観形成の整備方針

---

4-1	夜間景観形成の流れ	23
4-2	夜間景観形成の整備方針	24
4-3	ゾーンごとの夜間景観整備方針	25
4-4	夜間景観軸の整備方針	41

## 第5章 | 夜間景観の整備手法

---

5-1	照明の用語	44
5-2	夜間景観の整備基準	46
5-3	照明手法と留意点	47
5-4	照明器具選定時の留意点	59

## 資料編

---

1-1	照明設計に係る各種基準について	62
1-2	夜間景観軸等照度測定結果	66



# 第1章 はじめに

## 1-1 下関市における夜間景観形成の重要性

### 1 | 都市照明の基本的な考え方

近年、都市化に伴う夜間の生活時間の増大といったライフスタイルの変化、ライトアップ・イルミネーションによるにぎわいの創出など景観形成を考える上で、都市照明のありかた、すなわち夜間景観形成の重要度は高まっています。

市内では、歴史的建築物や公共・公益施設に対しライトアップが施されており、夜間景観における存在感を示すとともに、都市の魅力向上に寄与しています。また、イルミネーションを利用したにぎわいの創出など夜間景観を良好に演出する取り組みが行われています。

景観照明などの光の演出は、地域の個性やにぎわいを生み出すことにつながってだけでなく、優れた夜間景観は、快適に生活するための都市環境上の重要な要素の一つであり、まちに愛着を持ち、来訪者が再び訪れたいと思う契機ともなっています。

本市では、景観形成推進の基本となる都市景観形成基本計画、関門景観基本構想及び関門景観形成指針等を踏まえ、平成18年度に「下関市夜間景観形成基本方針」を策定しています。本方針は、本市における昼間の景観だけでは気づかなかったまちの魅力を再発見し、新たな魅力を創出させ、下関らしい夜間景観を形成することを目的に策定したものです。現在、この基本方針の趣旨に基づき、行政・市民・事業者の協働により下関らしい夜間景観形成が進められています。

今後の都市照明の役割としては、都市空間全体における快適な光環境の確保、環境や人に優しい光源の採用、下関らしさ・文化を感じる光の利活用が求められます。

### 2 | 夜間景観形成の重要性

下関には、迫力のある関門海峡、美しく連続した海岸の地形、緑地などの自然景観、関門橋、歴史的建築物、海岸に並ぶ観光施設など、下関の歴史や文化を表す様々な要素があります。

本市中心市街地の夜間景観については、「下関市夜間景観形成基本方針」に基づき、赤間神宮、亀山八幡宮、巖流島などのライトアップが行われているところですが、現状では、主に点としての整備が行われており、面的な整備や動線の整備には至らず、エリア全体の“光”を計画的に誘導するための整備基準がないことから、必ずしも調和のとれた下関らしい魅力的な夜間景観とはなっていないのが現状です。

夜間において下関の魅力を更に引き出すためには、ガイドライン等の策定により光の整備方針や照明器具の種類、照明手法などについて方向性を示し、行政・市民・事業者等の協働により統一感のあるまちの夜間景観を目指す必要があります。本市における夜間景観形成の推進には、景観の質の向上のみではなく、商業振興、観光振興及び中心市街地活性化等の各種施策との連携が必要です。良好な夜間景観は、都市としてのブランドイメージの向上や、交流人口の拡大等の波及効果が期待されることから、まちづくりを進めて行く上で重要な要素の一つとなります。

## 1-2 夜間景観形成基本方針

---

### 全体のコンセプト | 光の回廊

---

#### 下関における夜間景観形成について

海峡に沿ってつながるエリアには、歴史的にも建築学的にも重要な建築物や遺構などが多く集まっています。そこで、このエリアを夜間景観形成上においても重要な軸と考え、下関駅～唐戸～長府へと連なるルートを「**光の回廊**」として設定しています。

特に、下関駅から唐戸に至るルートの重要度は大きく、唐戸を中心としたエリアから周辺部へと光のエリアを広げていくことで、波及効果の高い「夜間景観形成」＝光のまちづくりができるものと考えられます。

単体のライトアップ施設を点、ライトアップ施設が集まっているエリアを面、それらの点や面を巡る動線を線と呼びます。点となるライトアップ施設を整備し、更にエリアとして方針を統一させた夜間景観を創造することにより、美しい夜間景観を楽しみながら回遊するための安心・安全な動線が整備されるものと考えています。

点 | 単体のライトアップ施設

面 | ライトアップ施設が集まっているエリア、夜間にぎわうエリア

線 | 点や面を巡る動線

## 1-3 夜間景観ガイドラインの目的・位置付け

### 1 | 夜間景観ガイドラインの目的

#### 目的1 | 下関らしさを活かした夜間景観を形成する

下関は、船舶、電車、自動車など、交通網の交わる本州の入口でもあります。全国に誇れる下関を創出するためには、公共施設、商業施設、公園など個々の整備にとどまらず、まち全体として調和のとれた光を構成することが重要となります。

下関には、高所からの視点場（ビューポイント）、対岸からの視点場など、下関ならではの夜間景観を楽しむ視点場があります。下関の海岸線や内陸部の緑地などの自然的要素、下関で培われてきた歴史的、文化的な要素など、下関らしい景観を守り、魅力的な夜間景観を形成するため、基本方針、照明計画の考え方を示すとともに、光の整備・演出手法を示すことを目的とします。

#### 目的2 | 市民が安心・安全に暮らすための夜間の光を整える

魅力的な夜間景観を形成するためには、点としての整備だけではなく、面や線といった動線となる光の構成も重要になります。夜間景観の整備・演出は、来訪者に対する観光目的だけではなく、市民が夜間に安心してまちを回遊できるよう、夜間の快適性を高めるために光の環境を整えることを目的とします。

#### 目的3 | 環境に配慮した光とする

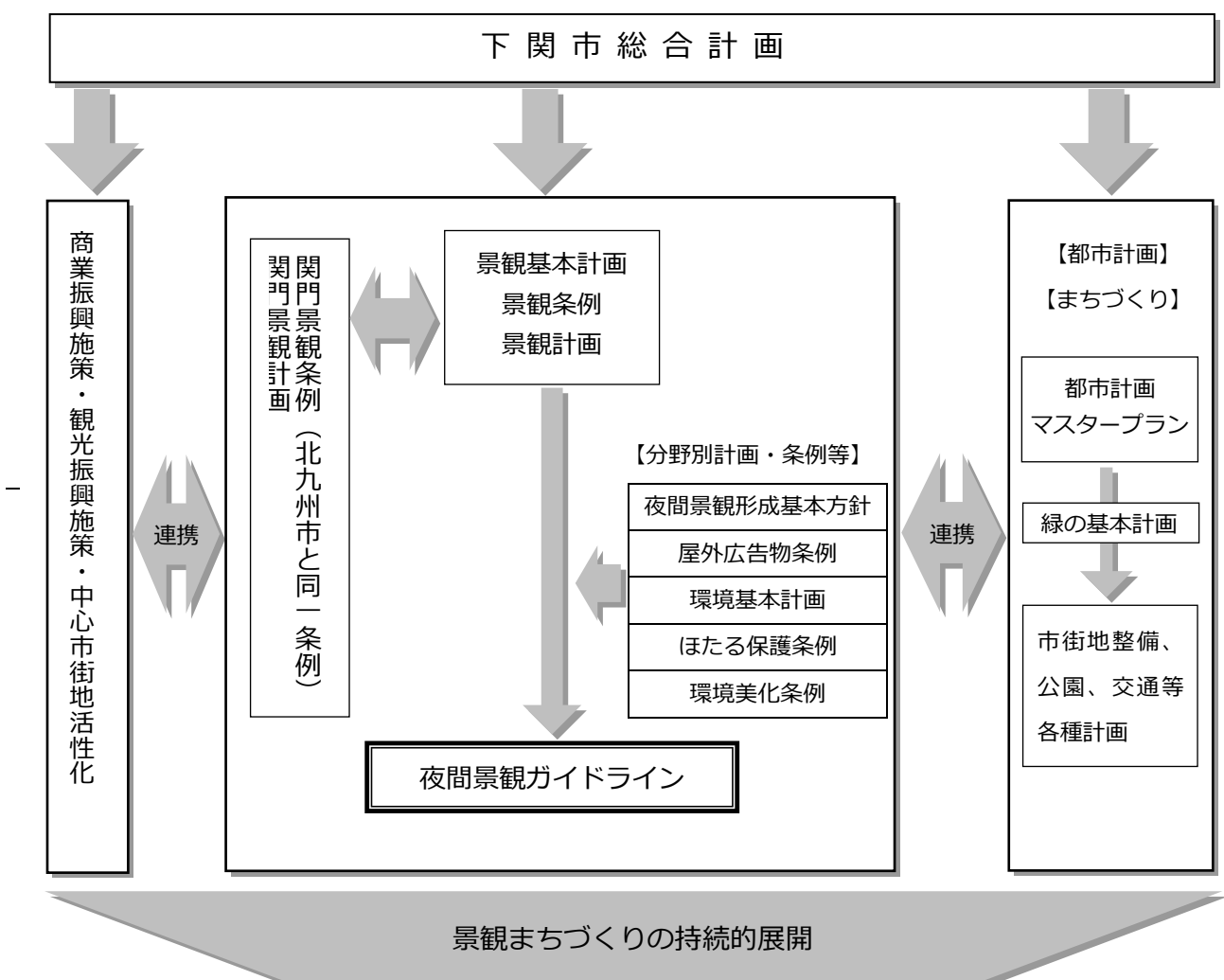
単に明るく照らすだけではなく、地形の形状、建築物の造形を活かし、グレア（不快なまぶしさ）や明暗のバランスに配慮したライトアップや照明計画が魅力的な夜間景観を創る上で重要となります。LED 照明等の高効率、長寿命である光源を積極的に採用し、省エネルギー対策や地球温暖化防止など環境に十分配慮する必要があります。上空への不快な光の飛散を抑えた環境への配慮や昼間の景観の妨げにならないよう、照明器具の選定やライトアップの手法にも十分な配慮が必要となります。昼間の景観への配慮や自然環境への負荷軽減を図るため、適切な光を灯すことを目的とします。

## 2 | 夜間景観ガイドラインの位置付け

下関の魅力ある夜間景観の形成は、本市の景観形成に関する基本的な方針を定めた下関市景観基本計画を推進するための重要な取り組みの一つです。本計画では、市内中心部の景観形成方針の一つとして「テーマ性や連続性のある夜間景観の演出」を掲げています。また、本計画の実現に向けた建築物、工作物等に対する規制・誘導方策を定めた下関市景観計画では、関門景観形成地域における景観形成基準の一つとして、夜間景観の演出等への配慮が求められています。更に、夜間景観に特化した方針として下関市夜間景観形成基本方針を策定しており、本ガイドラインは、これらの計画及び方針を踏まえ策定を行うものです。

本ガイドラインでは、上位計画や関連計画、各種関連施策等との連携を図りながら、市内中心部における光環境の方向性を示し、継続的な下関らしい魅力ある夜間景観を形成するためのポイントを示すこととしています。

### 下関市夜間景観ガイドラインの位置付け



## 1-4 夜間景観ガイドラインの対象エリア

本市では、平成18年4月に「下関市夜間景観形成基本方針」を策定しました。その中で、本市の海峡に沿ってつながるエリアには、歴史的にも建築学的にも重要な建築物や遺構などが多く集まっており、このエリアを夜間景観形成上においても重要な軸と考え、下関駅～唐戸～長府へと連なるルートに「光の回廊」として設定しました。特に、下関駅から唐戸に至るルートの重要度は大きく、唐戸を中心としたエリアから周辺部へと光のエリアを広げていくことで、波及効果の高い「夜間景観形成」＝光のまちづくりにつながる重要なエリアとして位置付けています。

本ガイドラインでは、下関市夜間景観形成基本方針を踏まえ、市内外からの来訪者が多く下関の魅力をも効果的に発信できる中心市街地内の下関駅から唐戸にかけてのエリアを対象とします。

なお、唐戸から関門橋に至る国道9号及び周辺区域については、対岸の門司港地区を視点場とした夜間景観に配慮します。

### 対象エリア

